

過酷な環境、充実の時間を

新たな就業スタイルが注目されている。労働環境が過酷な看護師にも、自分の時間を充実してもらおうという制度は「ワーキングシンデレラ」と名付けられた。

3人分のフルタイム労働に4人を雇い、1人ずつ年3カ月の有給休暇で「自分磨き」を一。明石市大久保町江井島の大西脳神経外科病院が看護師などに導入した

3人のフルタイム労働を4人で 有休3カ月「自分磨き」

大阪市淀川区の看護学生遠藤陽子さん(44)がこの病院に応募したのは、ワーキングシンデレラ制度があったからだ。

准看護師になったのが40歳のとき。7年前に訪れたインドでの経験から、海外で支援に加わりたくと漠然と考えながら大阪の病院に勤務していた昨年末、制度を知った。年明けに病院を見学、看護学校の卒業は2年先だが採用が決まった。「まとめて休んでも職場に戻れるのは魅力でした」。勤務開始後は、4人が1グループとなる。順番に3カ月ずつ休み、その間も基本給は支払われる。ボーナスが減額されるため、病院は実質的に看護師3人分の給料で4人を雇

明石の病院 看護師に新就業制度

用する形になる。もちろん、男性看護師も対象だ。

「休みの間も給料がもつて不安はない」と話す遠藤さん。就職

後はアフリカでボランティア支援をすると決めている。

大西脳神経外科病院に制度を提案したのは、ケニアで子どもの医療支援をするNPO法人「チャイルドドクター・ジャパン」ケニア事務所代表の宮田久也さん(37) 西協市出



8月、ケニアの首都ナイロビで、ポリオワクチン接種のボランティアをする遠藤陽子さん

身だった。首都ナイロビで10年前から診療所を運営する宮田さんは、約100人の日本人看護師をボランティアとして受け入れてきた。多くは日本の職場を辞めてケニアに来ていた。

「女性たちは仕事だけでなく、自分の成長のために時間を使いたいと思っている」。看護師に、働きながら輝く「シンデレラ」にな

ってほしい。宮田さんは、父親の主治医を通じて知り合った院長の大西英之さん(66)に提案した。

離職にも歯止め

「看護師を養成しても辞めてしまえば意味がない。休みを有効に使うって働き続けてくれば、看護の質も向上する」。大西さんは提案を歓迎、すぐに導入を決めた。

背景にあるのは、全国の病院が直面する看護師の高い離職率の問題だ。日本看護協会の推計では、2011年度の看護職員の離職率は10・9%。1年で約15万人が辞めたことになる。過酷な労働環境が大きな要因だと、協会は分析している。

厚生労働省の10年の試算では、資格があっても働いていない「潜在看護師」は、有資格者の3分の1に当たると約71万人に達する。その結果、多くの病院は看護師確保が難しくなり、さらに労働環境が悪化するという悪循環に陥っている。

ワーキングシンデレラが、現状を打破するきっかけをつくるか。大西さんは「雇用は柔軟な発想でいい。医療だけでなく、他の業種にも波及するのでは」と期待している。